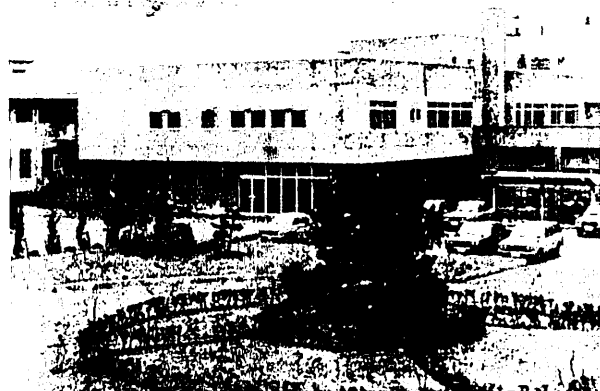


# 教育センターだより

第31号 (昭和58年6月)



イソップ物語の中に、「酸っぱいぶどう」という話があります。

「ある暑い日、キツネが歩いていました。もうずっと、のどがカラカラです。水が飲みたいな、と思っても、川も清水も見当りません。ところが、

ひょいと見ると、向こうに、うまそうなブドウが、イッパイなっているではありませんか。地獄に仏とはこのことだ。あのブドウは、きつとうまいに違いない。というわけで、取って食べようと思いました。どうしても取れません。どうしても取れないものだから、えい、もう、しゃく、なんだこんなブドウ、酸っぱいに決まっている。と言って、あきらめて行ってしまいました。」

ざっとこんな話ですが、おもしろい話です。

取れると思っていたときはうまいブドウでしたが、取れないとわかったら、酸っぱいブドウになってしまいました。

自分の意のままになると思っているときはよくて、自分の意のままにならないとなると、とたんに悪くなる。

こういう気持ちのありようは、それこそ、イソップ

の昔から、ずっと変わらないように思いますが、どうでしょう。

自分の意のままになる人はいい人だ。

自分の意のままにならない人は悪い人だ。

ものが作られようと壊されようと、ためを思おうと思うまいとおかまいなし。

意のままになる子は、いい子だ。

意のままにならない子は、悪い子だ。

こういうふうに決められてしまうと、もう、どうにもなりません。失地回復は至難の業です。努力は何の役にもたちません。

こういう具合のお付き合いは悲しいものです。

ところで、その人を見てみると、何となく、自分の

していることについて、これはちょっとまずいなあと、自分のしていることが恥ずかしくなって、これはいけない。これ以上やるとだめだぞ、と思うことがあります。

安心しろと言われなく

ても安心。

信じろと言われなくても信じることができる人のつながり。

やる気を出せと言われなくても意欲がわく。

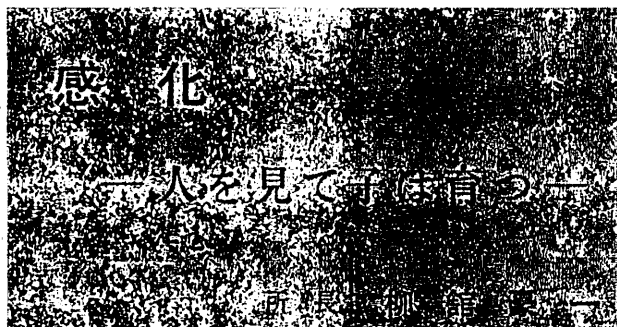
こういうことは、この世に確かにあるのです。これは、一体どこから生じてくるものでしょう。

教育というものは、本当はこういうものなのではないでしょうか。随分難しいことなのですが。

## 目 次

### 巻頭語

“感化”——人を見て子は育つ——	1
研修・研究の抱負と構想	2
刊行物予告	3
昭和58年度研修員の紹介	4
県内教育研究機関協議会の活動方針	5
観点別学習状況の評価の実際	
——教育研究法委員会——	5
お知らせ	6



## 研 修 ・ 研 究 の 抱 負 と 構 想

### 教職経験年数や職務内容に応じた研修の充実を

経営研究室

当研究室の講座には、従来、前・後期2回のもものが1回に、2日間の研修が1日になったものがあるので、密度の濃い充実した研修にするよう内容を精選した。

学校経営関係で、義務研修である小中高特の新任教頭対象の講座では、教頭としての職務に対する認識を深め、学校経営についての専門的機能の向上を図り、教務・校務主任等の講座では、職務内容上の諸問題について研修し、指導力を高めるよう計画した。

学年経営研修講座は、小中別とし、理論と実践の両面から研修を深め、学校経営のスタッフとしての資質の向上を図るようにした。

当教育センターで最も受講人数の多い、新採用教職員を対象とする教職教養研修講座は、小学校をA、Bに分けるとともに、中・高・特殊に養教等を含め3講座とし、教員として必要な教職教養の基礎的事項について研修する。所属校での研修が7日間あり、課題を与え、レポートを提出することになっているので、各校では後輩に対する適切な指導をお願いしたい。

経験6年次対象の教育方法研修講座では、学級経営、教科指導に関する協議の時間を設け、講義ではテキストを使用し、より専門的な研修を積むように計画した。

今年度、新たに研究・研修主任を対象にした研修指導者講座を開設した。校内研修の進め方に関する研修を行い、校内研修推進のリーダーとして必要な指導力の向上を図るよう計画している。

### 教育課程に即した研修・研究を

教科研究室

本年度は、小・中・高等学校における教育課程の基準の実施に対応するための学習指導及び学習評価を柱に講座運営を考えている。

小学校関係の講座では、「小学校教育講座」を新設し、三教科(国語、社会、算数)の指導理論、観点別学習状況の評価などについての研修を行なう。音楽は専科担当者の歌唱指導法を計画している。

中学校関係の講座では、美術がアルミを用いた工芸の実技指導として、東京芸術大学の伊藤弘利先生の招請を予定している。

高等学校関係の講座では、国語Ⅰ、現代社会、英語Ⅰは学習のあり方、指導内容の具体的展開や指導法の改善を内容としている。数学は習熟度別学習、数学に対する態度や多変量解析法とその教育評価への応用などを予定している。また、イングリッシュ・セミナーでは中・高等学校教員を対象に、LL設備を活用しての聴解練習と外人講師による口頭運用力の向上を重点に四日間の宿泊研修を計画している。

指導資料としては、「秋田県郷土教育資料—歴史学習編—」、「小学校複式学級の学習指導3・4学年用—国語・社会・算数・理科—」の発刊を計画している。

また「国語に対する態度を測定するためのSD型用具の開発について」をテーマに調査研究を進めている。

### 個を生かす学習指導の改善

教育工学研究室

教育工学基礎研修講座は、教育工学の基礎理論の習得と演習を通して、指導力の向上を図ることをねらいとして前・後期に分け4日間行う。

前期は学習指導プログラムの作成を中心に、講義と演習を行う。後期には前期の研修をもとに、実践したデータを持ち寄り、教育工学的手法による指導と評価についてさらに研修を深める。

また機器操作にも慣れ、最終日には授業参観も予定されている。

ソフトウェア制作研修講座は、教育機器の初歩的操作とその教材の作り方(ビデオシナリオの作成、ビデオ・スライド教材の制作など)を3日間にわたって研修、制作技術並びに指導技術の向上を目指している。

教育工学中級研修講座は、基礎講座をマスターした人や各地域で推進的な働きをしている教員を対象に、効果的な教材づくりと授業分析の仕方について実践的な研修(講義、協議、演習、見学等)を行い、教育工学的手法の一層高度な技能の習得と、指導技術の向上を図ることをねらいとしている。

奉仕活動の面では、今年度も随時研修の希望が多く、

研修内容も教育機器の基礎的操作からTP、スライドの自作技法、VTRの撮り方など。また学習プログラムの作り方から評価まで幅広い希望がある。

各校、各地の課題解決に役立つよう、指導内容を検討し充実を図りたい。

児童・生徒の発達や地域性を重視した  
豊かな理科学習の実現を目指して

理 科 研 究 室

#### ○研修講座について

児童・生徒の発達に即して、より豊かな自然観を育成するために、地域性を十分生かすこと、学習者の発達課題と学習過程の關係に配慮すること、観察実験法の工夫や教材教具の開発、野外観察の進め方等について研究しより充実した直接経験が可能になるように配慮することを主なねらいとして次の講座を実施する。

小学校の低学年理科、中高学年理科、理科経営、中学校・高等学校の理科教育、高等学校の理科Ⅰ、理科教材製作（教具製作、科学写真、岩プレ製作・観察、ガラス細工）、理科野外観察。特に理科野外観察は、小学校下学年を対象に地域性と児童の発達を考慮し総合的な自然観の育成をねらったものである。

#### ○研究事業について

理科学習の手引き書として「野外観察の手引き（動物編）」を刊行する。地域性を配慮するとともに動物を環境別に分類し、分かりやすく親しみやすい手引き書になるように心掛けている。また、「理科実験観察カード（中学校教材編第8集）」を刊行する。

#### ○海外技術研修員について

昭和58年7月1日から昭和59年3月31日までの9か月間、ホンジュラス共和国の国立教員養成所の教師であるオスカル・エドガルド・ウルピナ・ベントウラ氏（27）が、主として小・中学校の理科実験及び指導技術の研修のために来所する。

新しい企画を加えて

技術家庭研究室

本年度の講座は、新規に企画したものを含めて、13講座を計画している。

小学校家庭科は3年計画の2年次であり、高校家庭科は2年計画の2年次である。いずれも内容は昨年同

様で大きな変更はないが、昨年の反省を加え、一部修正をして受講者の要望に答えるよう工夫している。

中学校技術・家庭科実技研修講座は、講座内容が変り、新しく3年計画が出発している。特に文部省刊行の「研究の手引き」が改訂されたので、その内容を大幅に取り入れた内容になっている。また従来3日間の講座日数であったが、諸般の事情により2日間に短縮している。そのため一層内容の充実吟味を図り、受講者のニーズに答えるよう努力している。

技術・家庭科教材研修講座は、2年計画の2年次であるが、木材加工と保育が計画されている。まだ人員に余裕があるので、今後の申込みを期待している。

本年度新設したマイクロコンピュータ研修講座は、今後各学校にマイコンが導入されることを予想して、小中高を通した希望研修講座として開設したが、定員の約3倍の受講希望があり、盛況である。来年度からは2回ほど同じ講座を開設するの必要を感じているし、さらに将来、初級、中級、上級等に発展させていきたい考えである。

本年度の所員研究発表は、倉泉指導主事が機械領域の「エネルギー変換」をテーマに、融合題材の開発についての試案を発表する予定である。

### 刊 行 物 予 告

- 観点別学習状況の評価の実際  
教育研究法委員会
- 研究紀要 第15集
- 研修集録 第15集
- 教育研究資料件名目録 第16集  
経営研究室
- ソフトウェア件名目録 第6集  
教育工学研究室
- 複式学級指導資料  
「小学校複式学級の学習指導3・4学年用—  
国語・社会・算数・理科—」  
教科研究室
- 秋田県郷土教育資料「歴史学習編」  
教科研究室
- 理科実験カード「中学校教材編」第8集  
理科研究室
- 野外観察の手引き「動物編」  
理科研究室

# 昭和58年度研修員とテーマ紹介

本年度も、教育センターに10名、特殊教育センターに3名、計13名の先生方を、5月1日から9月30日までの5か月間にわたり、研修員として迎えることになった。

研修期間中、研修課題による分担研修を行う。また特定講座の受講や所外施設見学等も予定されている。

昨年度に続き今年度も、特に次の点に配慮して研修に当たることとしている。研修テーマは、個人的な発想でなく、広く県内の学校で生かされるよう、県の教育方針にのっとり将来を見通した、大局的立場で研究の推進を図る。その成果を、学校の先生方に活用してもらえるよう研修集録第15集として刊行の予定である。

## <経営研究室>

- 横手市立横手南小学校 教諭 星野 昭紀  
地域の素材を生かした学校教育活動  
—小・中学校の郷土の学習調査から—
- 秋田市外旭川中学校 教諭 小松 長成  
児童生徒の意識調査に基づく進路指導の改善

## <教科研究室>

- 森吉町立森吉中学校 教諭 佐々木久隆  
中学校・美術科の絵画における色彩指導について
- 秋田県立秋田工業高等学校 教諭 浅野 貞一  
高等学校地理学習における評価の工夫  
—形成的评价を中心にして—

## <教育工学研究室>

- 大館市立有浦小学校 教諭 日景 達郎  
個別化をめざす学習材の一考察  
—地域教材を通して—

## <理科研究室>

- 秋田市立旭川小学校 教諭 芹田 孝  
旭川流域の流水のはたらきについて  
—資料作成とその活用—
- 山内村立松川小学校 教諭 佐藤 健悦  
小学校における「物の燃え方」についての一考察  
—炎と気体の関係のとらえさせ方を中心に—
- 鹿角市立八幡平中学校 教諭 熊谷 良政  
中学校理科の物理領域におけるエネルギー概念の具象化についての一考察

## <技術家庭研究室>

- 本荘市立本荘北中学校 教諭 岩見 一雄

## 地域性を生かした題材例の検討

—特産木工製品を中心に—

- 大曲市立大曲中学校 教諭 中村 和樹  
内燃機関における動力伝達のしくみを理解させるための教具の工夫  
—クラッチ・変速機を中心に—
- 秋田県立西仙北高等学校 教諭 吉成 信子  
高等学校家庭一般における調理実験カードの作成



(入所式風景)

## 特殊教育センター関係

### <教育相談研究室>

- 男鹿市立北浦中学校 教諭 三浦 正光  
中学生の生活意識と適応についての一考察  
—発達に即応した自立をはかるために—
- 秋田県立秋田養護学校 教諭 高橋 桂子  
精神薄弱児H児のリトミック指導について

## 県内教育研究機関協議会の活動

当教育センター及び特殊教育センターをはじめ、県内14市町村にある教育研究所、教育センター、理科教育センターが加盟している県内教育研究機関協議会の58年度総会が、去る4月28日、当センターを会場にして開催され、本年度の役員が次のように選出された。

- 会 長 柳 舘 豪一（県教育センター所長）  
 幹 事 塩田孝三郎（同 教育研究部長）  
 “ 山本 陽一（同 科学技術研究部長）  
 “ 各研究機関・専任者  
 常任主事 高橋富美雄（県教育センター経営研究室長）  
 “ 粟津 豊（同 理科研究室指導主事）  
 “ 富山 良治（同 教科研究室研究員）  
 “ 山田 昭（特セ相談研究室研究員）  
 会計監査 三浦 謙蔵（阿仁町教育研究所）  
 “ 塩屋輝輝夫（横手市理科教育センター）  
 事業計画 1. 教育研究発表  
 2. 機関紙の発行  
 3. 教育研究に必要な資料の収集・交換  
 4. 教育研究に必要な知識や技術の修得

教育研究部、理科教育センター部に分かれて、具体的な事業計画について審議した。

## ○ 教育研究部会

昨年度に実施した共同研究「生徒指導に関する調査」は、県内の多くの教育関係機関や新聞等に取り上げられ、その反響も大きかった。今年度の事業でも、共同研究の継続として、「小学生や中学生を持つ親の意識調査」を実施することになった。6月末の地区研修会で調査項目を決定し、7月上旬実施の予定である。

また、「教育研究所・センターだより」第9号、10号を発行することを決め、担当は、阿仁町、上小阿仁各教育研究所が当たることになり、研究所相互の連携と広報活動を図ることになった。

地区研修は、前期6月28～29日は、大曲市を中心に教育・文化・産業に関する施設などを見学すると共に共同研究推進のための協議を計画している。

後期の地区研修は、10月27～28日、湯瀬で行れる、東北・北海道地区教育センター協議会に出席して、研

究発表を聞いたり、協議に参加して研修を深めることを申し合わせた。なお、当研究部会でまとめた共同研究も、協議会で発表することにした。

## ○ 理科教育センター部会

当部会は、7つの地区理科教育センターと県教育センターの8機関より構成され、各センターの事業等についての情報交換を行うとともに、学校での今日的課題等について把握し、共通理解の基に、各機関の研修事業をより協力的に推進していくという基本方針で運営している。

今年度の主な事業は、理科の野外観察学習の進め方の望ましい在り方について、現地研修を行う計画を立てている。これまで、各地区センターを中心に地域自然の教材化ということで、学校周辺及び地域の生物的・地学的素材についての実態調査が行われ、素材分布図の作成や学習への位置づけ等の検討がなされてきたが、実際の野外学習には多くの問題を抱えている。

この事業は子供の発達を考慮し、いかに自然観を育成していくかという指導的な面にメスを入れてみたいという意図から計画されたものであり、実際に秋田市旭川流域の自然にふれながら、望ましい野外観察学習の進め方や視点について研修することにした。

## 観点別学習状況の評価の実際

### 教育研究法委員会

昭和51年に発足した教育研究法委員会では、昭和55年度から「教育評価」の研究を続けてきた。

昨年度からは「観点別学習状況」の評価に取り組み、その考え方、評価の手順、達成状況の判定などを内容とした「観点別学習状況の評価の進め方」を今回発行した。

引き続き今年度は、小・中学校の教科の実際に基づいた「観点別学習状況の評価の実際」の刊行を予定している。その内容としては、研究の概要と、能力・思考、技能、関心・態度の評価例および今後の課題などを考えている。

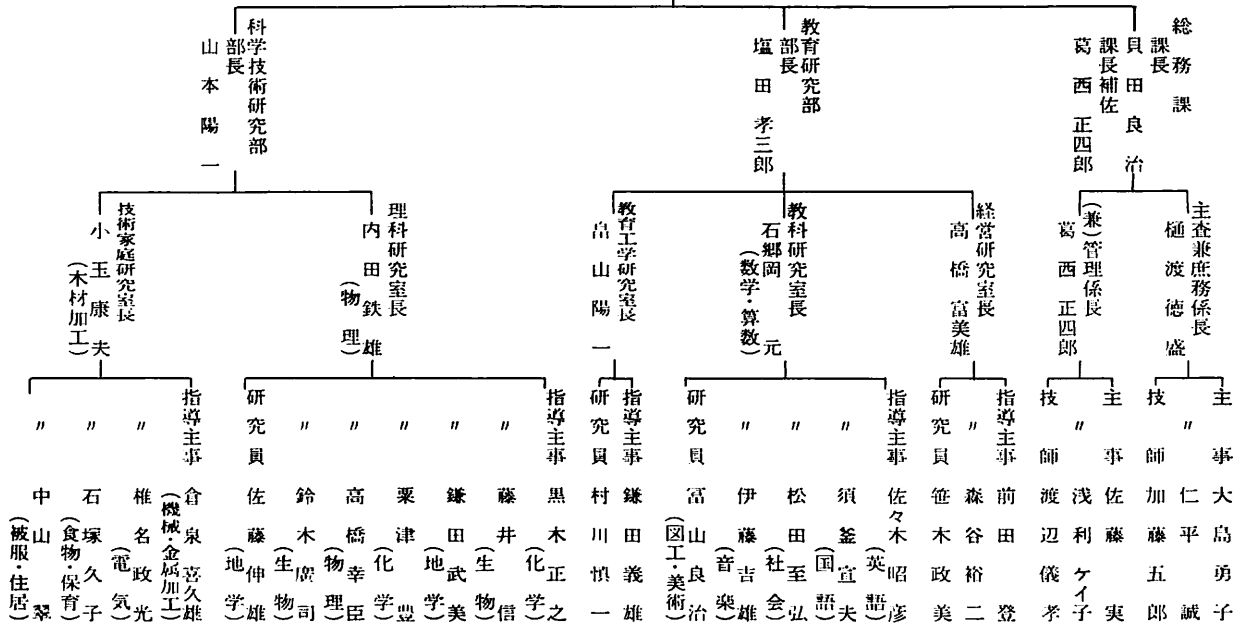
なお、来年度は、「高等学校における学習指導と評価」（仮称）の発刊を計画している。

秋田県教育センター機構と担当者一覧

(昭和58年4月1日現在)

お知らせ

所長  
柳館豪



人事異動

＜転任＞

所長	荒谷浩	生涯教育センター所長へ
総務課長	宮原茂	文化課参事兼課長補佐へ
庶務係長	高橋康脩	福利課年金係長へ
経営研究室長	鈴木樹	仙北出張所指導主事へ
指導主事	松山剛	北教育事務所指導主事へ
"	近藤繁	秋田高校教諭へ
"	小松玲子	高校教育課指導主事へ
研究員	工藤周一	外旭川中学校教諭へ

＜新任＞

所長	柳館豪一	比内養護学校長から
総務課長	貝田良治	青年の家総務課長から
主査兼庶務係長	樋渡徳盛	保健体育課庶務係長から
指導主事	前田登	西仙北高校教諭から
"	栗津豊	横手鳳中学校教諭から
"	鈴木廣司	花輪第二中学校教諭から
研究員	富山良治	本荘鶴舞小学校教諭から

＜昇任＞

経営研究室長	高橋富美雄	教育工学研究室長から
教育工学室長	島山陽一	理科研究室指導主事から

全県児童・生徒理科研究発表大会について

児童・生徒の自主的な研究活動を奨励し、その研究成果を発表し合ってお互いの発展向上に役立てようという目的で行われてきたこの大会は、本年度で18回目を迎える。年々参加者も増加し、研究内容も多彩で充実したものになっている。

今年の発表大会は、当教育センターを会場に、11月7日(月)小学校の部、8日(火)中学校の部、9日(水)高等学校の部と3日間にわたって開催する。実施要項は7月中旬に各校に送付する。

図書資料室のご案内

当資料室には、教育関係の図書をはじめ、国研や各都道府県の教育センター・教育研究所等の機関から収集した教育研究資料が、11,304点(昭和58年5月1日現在)ある。所外の先生方にも貸出しをしている。

また、教育研究資料件名目録(第XV集)を配布したので活用してほしい。

教育センターだより 第31号

発行年月日 昭和58年6月30日

編集発行者 秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号